

小学校初任教員の勤務実態と課題

戸田 浩暢

Work circumstances and issues arising for primary school teachers
in their initial teaching position

Hironobu TODA

Abstract

The circumstances regarding the work of teachers are becoming a national problem. Even in Hiroshima prefecture, matters such as long working hours, diversification of work tasks, increasingly complicated paperwork, etc., are becoming issues. For this essay, I surveyed and interviewed 6 primary school teachers in the City of Hiroshima, Hiroshima Pref., employed in 2011 in their first teaching position and looked into their work circumstances and relevant issues arising, and investigated the work tasks that they were required to carry out during their long working hours.

I 教員の勤務に係る実態について

全国的に教員の勤務に係る実態が問題となっている。中央教育審議会が平成20年1月17日に、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」を答申した際にも、「我が国における『授業研究』などの授業の質を高めようとする教師同士の取組などは、諸外国でも関心をもたれている。このほか、生徒指導や部活動など授業以外での子どもたちへの指導も行われている。文部科学省が行った教員勤務実態調査の結果によれば、小・中学校の教諭の残業時間が1月当たり平均34時間となるなど、昭和41年の勤務状況調査と比べ、残業時間が増加している。しかしながら、同調査では、教諭の職務内容を分析した結果、子どもたちの指導に直接かかわる業務以外の、学校経営、会議・打合わせ、事務・報告書作成等の学校の運営にかかわる業務や行政・関係団体等の外部対応といった業務に多くの時間が割かれている実態が明らかになった。」¹⁾と述べられている。

特に広島県では、勤務時間・業務・通勤等に係る課題が、県議会でも取り上げられている。平成23年9月定例県議会において、山下真澄県議会議員から、「私どもが県内の公立小中学校

における本年6月の、管理職を除いた教員の勤務状況を抽出調査したところ、自宅へ持ち帰って仕事をした時間や休日に出勤した時間を除いても、超過勤務の平均は65時間26分にもものほり、25%の教員は80時間を超えていた。しかも、この時間のほとんどは教育委員会が提出を求める各種書類の作成に費やされており、子どもたちと向き合う時間に充てることができないこと、さらに、厚生労働省の通知に基づいて必要な措置を講じている校長が少ないとも聞き及んでいる。そのうえ遠距離通勤を強いられている人も多く、肉体的・精神的ストレスは限界に達している。²⁾ という指摘がなされている。これに対して、下崎邦明教育長は、「教職員一人一人が、意欲を持って職務に邁進し、その能力を十分に発揮していくためには、全ての教職員が健康であることが基本であると認識しております。このため、教職員の負担の軽減を図る観点から、教育委員会が発する調査・照会について、精選・簡素化を徹底するなど、業務改善に取り組んできたところであり、加えて、本年、事務局内にプロジェクトチームを設置し、より学校現場の実態を踏まえた業務改善への取組を進めているところであります。」³⁾ と述べており、今後の行政の適切な対応が望まれている。

本稿では、本年度、広島県・広島市に小学校教員として採用された初任者6名の勤務実態⁴⁾を事例として取り上げ、小学校初任教員の抱える課題の一部を明らかにしたい。

Ⅱ 勤務時間の実態

本節では、小学校初任教員（A～F）の勤務時間に係るアンケートの回答や聞き取りをもとに、その実態を明らかにしたい。各教員の担当学年とクラス人数は次のとおりである。

表1 小学校初任教員（A～F）の担当学年とクラス人数

	学年	男子	女子	計		学年	男子	女子	計
A	3年	18名	13名	31名	B	3年	18名	15名	33名
C	2年	16名	16名	32名	D	2年	13名	10名	23名
E	2年	16名	18名	34名	F	4年	6名	3名	9名

学年担当は低学年と中学年（2～4年生）となっており、クラス人数に幅はみられるが、概ね30名前後である。

アンケートでは、4月から7月までの4ヶ月間の勤務時間に関して、「平日平均出勤時間」、「平日平均退勤時間」、「最も早い出勤時間」、「最も遅い退勤時間」、「土日出勤数・時間」の回答を求めた。

以下、その回答である。

表2 小学校初任教員（A～F）の勤務時間

平日平均出勤時間－平日平均退勤時間（最も早い出勤時間－最も遅い退勤時間）								
A	4月	7：00－22：00 (6：40－22：30)	B	4月	7：20－21：00 (7：00－22：30)	C	4月	7：30－20：30 (7：20－21：00)
	5月	7：10－22：00 (6：50－22：30)		5月	7：20－21：00 (7：00－22：30)		5月	7：30－21：00 (7：00－22：30)
	6月	7：10－21：30 (6：50－23：00)		6月	7：20－21：00 (7：00－22：30)		6月	7：30－21：00 (7：00－23：00)
	7月	7：15－21：30 (7：00－23：00)		7月	7：20－21：00 (7：00－22：30)		7月	7：30－20：30 (7：15－21：30)
D	4月	7：00－22：00 (6：15－23：30)	E	4月	7：10－23：00 (7：00－23：30)	F	4月	7：30－19：30 (7：30－20：00)
	5月	7：00－21：00 (6：30－22：00)		5月	7：20－22：30 (7：10－23：30)		5月	7：30－19：30 (7：30－20：00)
	6月	7：00－21：00 (6：30－22：00)		6月	7：00－23：30 (7：00－1：30)		6月	7：30－19：30 (7：30－20：00)
	7月	7：00－21：30 (6：30－22：00)		7月	7：20－21：00 (7：00－0：30)		7月	7：30－19：30 (7：30－20：00)

平日平均出勤時間は、6名ともほぼ同じように7時から7時30分の時間帯になっている。聞き取りでは、教頭を除いて、全ての教員の中でほぼ一番に早く出勤している。教材研究や一日の教育活動の準備等をはじめ、一番早く出勤しないとその日の学校生活が慌ただしいものになる状況がみられる。また、早く出勤して、職員室の先生方の机を拭いたり、ゴミ捨てを率先して行う教員もみられた。平日平均退勤時間に関しては、最も早い教員（F）で19時30分、最も遅い教員（E）で23時30分と幅がみられる。しかし、聞き取りでは、19時30分に退勤する教員は、仕事を家に持ち帰り、夜遅くまで教材研究やクラスの児童に係る仕事を行っているとのことであった。平均的には、21時前後である。

最も早い出勤時間では、6時15分となっており、行事前に仕事の準備等で早めに行かざるをえない状況があるとのことであった。最も遅い退勤時間の教員（E）は、深夜1時30分である。本教員は、日頃の平均退勤時間が、4月から6月に掛け、22時30分から23時30分と遅い。真面目で探求心の旺盛な教員であるが、聞き取りでは、学年で児童に対して横並びの学習指導や学級経営を徹底しており、他のベテランの教員のペースに付いて行けず、結果的に遅くまで学校に残り、仕事をせざるをえない状況もあるとのことであった。

表3 小学校初任教員（A～F）の土日出勤日数と延べ時間

土日出勤日数（4月～7月の回数）：延べ時間					
A	23日間：138時間 （4月8回・5月8回・ 6月4回・7月3回）	B	12日間：72時間 （4月3回・5月3回・ 6月3回・7月3回）	C	11日間：50時間 （4月1回・5月5回・ 6月5回・7月0回）
D	7日間：42時間 （4月0回・5月1回・ 6月3回・7月3回）	E	12日間：80時間 （4月4回・5月0回・ 6月8回・7月0回）	F	1日間：5時間 （4月1回・5月0回・ 6月0回・7月0回）

土日の出勤数と仕事をした時間には大きな幅がみられる。最も多く出勤した教員（A）は23日間で133時間の仕事をしている。4月から5月に掛けては、ほぼ土日の両日に出勤しており、6月から7月に掛けては、土日のいずれかの日に出勤している状況である。本教員は、日頃の平均退勤時間も21時30分から22時と遅く、休養が十分に取ることができていない状況がみられる。最も少ない教員は、4月の1回だけ5時間であるが、聞き取りでは、家で仕事をしているとのことで、休養を取る時間が少ないとのことであった。平均的には、10日前後である。

当然のことながら、6名の教員の動向に関して、各学校で求められている仕事の量や、作業スピードが一律ではないため、数字の比較は困難である。しかし、勤務時間が8時過ぎから17時過ぎという正規の時間からすれば、非常に多い学校滞在時間数ということができる。これは、初めての小学校勤務であり、体験したことがない慣れない作業を行わざるを得ないため、このような実態になっていると考えられる。

次節では、勤務内容の実態についてみていきたい。

Ⅲ 勤務内容の実態①

本節では、小学校初任教員（A～E）の勤務内容に関するアンケートの回答をもとに、その実態（困ったこと・悩んだこと）を明らかにしたい。

アンケートでは、4月から7月までの4ヶ月間の、勤務内容に関して、「学級経営で困ったこと・悩んだこと」、「保護者対応で困ったこと・悩んだこと」、「授業で困ったこと・悩んだこと」等の回答を求めた。

以下、その回答である。

学級経営で困ったこと・悩んだこと	
A	4月当初、気になる子（規律が守られない児童等）への対応が不十分で、真面目な子が流され始めた。どう褒めて、叱ってよいか分からない。子どものみんが敵に思えるような日もあった。何をやってもうまくいかない。問題行動が起り過ぎる。一人ではどうしたらよいか分からない。

B	子どもが話を聞いてくれないことが時々あった。宿題の出し方や叱り方について、どのようにすればよいか悩んだ。
C	学級経営全体に対して、どのようにしてよいか分からないため、日々、悩んだ。同学年の先生に聞いたりしたが、経験不足で難しい。
D	学習規律の徹底や当番、係り決め、学級目標、教室の掲示物をどのようにしていけばよいか分からず、困った。
E	4月から5月に掛け、とにかくどのように学級経営を進めてよいか分からず、一日の流れも把握できなかった。5月になると運動会の練習が入ってきて、多忙を極め、児童への指示の出し方で困った。
F	4月から5月に掛けて、何も分からず、全てにおいてどうしてよいか迷うばかりでしたが、今は何とかこなしています。忘れ物や宿題忘れをする児童への対応に困りました。

学級経営とは、学校や学年の教育目標の実現に向けて、自己の担当する学級を効果的に組織し、運営することであるが、多様な仕事を行わないといけない。例えば、「学級経営目標の実現に向けた具体的な方策の立案と実施」、「各種表簿、観察、関係者の対話を通じた児童の心身の特徴把握」、「望ましい人間関係の形成に向けた具体的な方策と実施」、「児童の健全育成や学級生活の充実を図る活動計画と実施」、「児童一人一人の学力の特徴や傾向把握と適切な指導」、「教室の物的環境の整備と管理」、「学習評価、諸表簿作成・整理などの事務処理」、「学級経営に関する保護者の理解を促し、連携を深めるための学級便りの発行や懇談会、家庭訪問の実施」等がある。

これらのことは、大学においても学習する機会（教育実習を含む）はあるが、多くは机上での学びである。そのため実際の個別具体の実践に関しては、十分な経験や知識もなく、教育委員会等が実施する初任者研修で学ぶ機会もあるが、「学級経営全体に対して、どのようにしてよいか分からないため、日々、悩んだ。」、「学習規律の徹底や当番、係り決め、学級目標、教室の掲示物をどのようにしていけばよいか分からず、困った。」など、対応に苦慮する実態が如実にみられる。

保護者対応で困ったこと・悩んだこと

A	発達障害の子への他の保護者の怒り。無理なサマースクールの勉強の要望。毎日の生活ノートでの手紙に対する返事。
B	大休憩にボールが当たりめがねが壊れた。その後の対応に不満を感じさせ、少し文句を言われた。時間が立つと元に戻った。
C	クレーム等を言ってくる保護者への返答の仕方に困った。理不尽な要求への対応に困った。
D	言いたいことが伝わらないこと。集金（就学援助を勧めるのも担任がする）。保険会社の営業の人が保護者であること。夜の仕事をされている方がいて、放課後に連絡がとれない。連絡網で連絡が取れないとき、家まで出向かないといけないときが多くある。無茶なお願いをされること。連絡網で携帯の番号を載せているので、時間が遅くても、休日でも遠慮なく電話がかかってくること。

F	今のところ大丈夫です。
---	-------------

「モンスターペアレント」といった用語が人口に膾炙する世の中であるが、保護者対応に関しては、教員（F）のみ、「今のところ大丈夫です。」という回答をしており、その他の教員は何らかの困った状況に直面している。聞き取りでは、その際、同僚の教員や主任、管理職、初任者指導教員のアドバイスで概ね解決に至っているが、精神的な圧迫や対応に係る時間の増加で、心身に多大なストレスがかかっていることがみられた。

授業で困ったこと・悩んだこと	
A	とにかく大学で習ったような授業らしい授業はできていない。なぜなら学級が崩壊に近い状態になっていたから。
B	授業の準備が間に合わない。子どもが意欲を持って取り組めるような授業ができない。指導書どおりにして、子どもの反応に応じた工夫ができない。学力の二極化への対応に悩んでいる。
C	授業をどのように構成していけばよいか分からない。授業準備で考えたように授業自体が進まない。
D	学習規律が徹底されていないので、授業が中々進まない。学習道具が揃わない児童が多い。自分の教え方が悪いので中々理解してもらえない。
E	時間配分。時間内に予定していた内容が終わらない。板書が不十分。「国語」の物語文の授業の進め方が難しい。音読や主人公の気持ちを書かせる以外の活動の充実が求められる。読み取りが一問一答になる。
F	「社会」をどのように進めていけばよいか分からない。「図画工作」も感覚的なところを、どのように児童が分かるように指導するか難しい。

授業に関しては、「子どもが意欲を持って取り組めるような授業ができない。」など授業そのものの学習計画立案や授業構成の方法に呻吟しているケースもみられるが、「学級が崩壊に近い状態になっている。」など学級経営上の問題が絡んできたり、「学習規律が徹底されない。」とか「学習道具がそろわない。」など生徒指導上の問題も関係している。また、「授業の準備が間に合わない。」など、日常的に他の活動に時間が取られ、十分な準備ができないケースもみられる。

学校生活（職員室等での人間関係等）で困ったこと・悩んだこと	
A	個性が強い先生方が多いように感じられる。直接関わりはないが、教員同士で言い争いがあった。
B	特にありません。
C	特別支援教育に係るアシスタントの先生との人間関係に悩んだ。

D	苦手な先生がいること（妙に冷たくされることもある）。主任の先生に質問をしづらい雰囲気があること。
E	管理職から「早く帰ってください」と言われるが、仕事の量が自分の能力以上にあり、勤務時間が終わっても帰ることができない。
F	今のところ大丈夫です。

職員室等での人間関係等の学校生活に関する事柄では、概ね良好な状態が保たれていることがわかる。一部、人間関係を上手く形成できない事例もあったが、そのことが勤務上において多大なストレスになるところまでには至っていない。

児童対応で困ったこと・悩んだこと

A	場面緘黙症の児童や、自虐行為を行う児童、発達障害の児童、ネグレクトの児童がおり、どのように関わってよいか分からない。
B	友達の気持ちが読めなかったり、コミュニケーションに困難を感じたりしている子が、怒って暴れるときがある。保護者の協力が得られず、ADHDの子の具体的支援が分からない。集中力が続かず、手悪さをずっと続けている子がいる。文字を書くことが苦手なので、国語の時間は毎日格闘！
C	発達障害の児童への対応に悩んでいる。落ち着かない児童やグレーゾーンの児童への対応にも困っている。
D	髪を染めている子どもに対してどのように保護者に言えばよいか悩んでいる。学習道具が揃わないことに対しての指導が徹底できていない。
E	何事にも遅れがちな児童への対応に困っている。声掛けをしても、付いていてもなかなか行動しない。集中力が続かない。
F	違う学年の児童同士のトラブルがあり、連携が難しいと感じました。

「髪を染めている子どもに対してどのように保護者に言えばよいか悩んでいる。」といった生徒指導上の問題に関して悩んでいるケースもみられるが、多くの教員が、「友達の気持ちが読めなかったり、コミュニケーションに困難を感じたりしている子が、怒って暴れるときがある。」など発達障害等に係る児童への具体的な対応に苦慮していることがわかる。こうしたことに関して、大学で教科書・講義等を通じて学習を行ってきたのはいるが、個別の実践に関して、同僚等の指導助言に助けられつつも、どのように対応していけばよいのか手探りの状態であることがわかる。

教材研究で困ったこと・悩んだこと

A	何一つできていない。
B	指導書どおりになる。流れがつかめない。
C	教材研究の方法が把握できてなく、時間が掛かる。

D	教材研究の仕方がよく分からず、何から手をつけていいのかさえも分からない。時間が掛かり、捗らない。
E	どのように教材研究をして良いか分からない。
F	絶対付けさせる学力は何かを見極めるのが難しい。授業で活用する教具を余り作成できていません。

授業に関して、多様な教科や道徳・総合的な学習の時間・特別活動を行わなければならない、教科書の指導書に頼りつつ一般的な授業の進め方は分かりながらも、学級の雰囲気や児童の様子、一人一人の理解度の違いに、大きな戸惑いを感じ、学級の実態にあった教材研究ができていないことが、聞き取り等でわかった。

その他、就職して学校生活等に関して困ったこと・悩んだこと

A	責任の重さに押し潰されそうになることがある。
B	4月は忙しく（私は自分のことで精一杯）なかなか帰れなかった。帰られない空気がある。
C	学年の先生の中で考え方が違うことがあり、どのようにして良いか分からない時がある。
D	ホウレンソウが大切だというけれど、もっと相談にのってくれるような雰囲気や体制を整えて欲しい。学校諸費を払わない保護者に対して、学校から何らかの処置をとって欲しい。
E	自分の仕事をする時間が欲しい。研修は勉強になるが、仕事が多すぎて、いつも遅く帰る。管理職から、「早く帰ってください」と言われるが、仕事を片付けることができず、早く帰ることができない。
F	4月は、出席簿の管理や週案でかなり時間を取られた。授業の用意をしないといけないので、持ち帰り仕事をするしなければならず、睡眠時間を十分確保できなかった。また、授業準備が不十分になって、授業の時に慌てたりと、余裕のなさや自分の能力の不十分さに辛く感じるが多かったです。

ここでは多様な回答がみられたが、「学年の先生の中で考え方が違うことがあり、どのようにして良いか分からない時がある。」など学校の体制づくりについて、「自分の仕事をする時間が欲しい。」など時間管理の難しさに言及していることがわかる。また、教員として児童の前で教壇に立ち、適切な保護者対応を迫られることなどに対して、「責任の重さに押し潰されそうになることがある。」といった、反面的に社会人としての自覚に繋がる回答もあった。

別件ではあるが、同じ小学校初任教員に対して、次のような、職場における大変な状況に対する切実な思いをメールで告白した教員もいる。「ごめん、今日だけ愚痴らせて。このクラス1人でできるわけないやろ！一年目だぞ…。移動のたびに何往復させる気だ。体育ぐらい自分で外に出てよ。何人クラスに残ってるんだよ。体育はやるんだよ。理科で外に出るのに靴履かせて…自分でやるんだよ。音楽いいかげん1人で行くんだよ。3往復はきついよ。本当は空き時間だよ。手ひっぱって荷物もって移動はしんどい。あたしは親ではない。給食食べてよ。自

分で片づけてよ。掃除してよ。並んでよ。自分らで解決してよ。何人泣くんだよ。掃除時間や給食時間にいちいち喧嘩しないでよ。ちょっと言われたからって泣かないで。いちいち言わないで。はぶてるな。自分で生活ノート書いてよ。細かいんです。毎日の保護者からの TEL 怖いんです。自分の子どもみてよ。宿題いいかげんにやってよ。休憩時間に追い掛けさせないで。何回呼び出させるの。毎日放課後つぶれるよ。道具持って来てよ。夕方になると頭痛ハンパないよ。声からず気か…。ああ…今から仕事か。みなさん…毎日戦ってます。みんなも戦ってるんだよね。ごめん愚痴って。また明日から頑張る。」といった、些か表現に気になる点も有りはするが、一所懸命に児童に対して取組をしながらも、なかなか好転しない状態に懊悩している心情を正直に吐露した内容になっている。

Ⅳ 勤務内容の実態②

本節では、小学校初任教員（A～E）の勤務内容に関するアンケートの回答をもとに、その実態（良かったこと・成果）を明らかにしたい。

アンケートでは、4月から7月までの4ヶ月間の、勤務内容に関して、「学級経営であった良かったこと・成果」、「保護者対応であった良かったこと・成果」、「授業であった良かったこと・成果」等の回答を求めた。

以下、その回答である。

学級経営であった良かったこと・成果	
A	「とにかく子どもに媚びない。子どもの機嫌を取らない。顔色を伺わない。嫌われ者になってもいい。一匹狼覚悟。涙なんか絶対見せない。堂々と強気で。こうしないとすぐに学級崩壊するからあなたの選択は間違ってた。」と指導の先生に言われた。つらかったけれど…それでも、伝えたいことを伝え続けたら何人かの子どもがついてきてくれるようになった。日々、問題行動が起こるけれども、一つ一つ丁寧に取組んでいけば、少しずつ良い方向に向いて行っている。
B	話を最後まで聞けない子たちでした。最近は黙るようになった…かなという感じです。クラスのルールが徹底されてきた。一人ひとりがどんな子か分かってきて、その子に応じた言葉掛けができるようになった。休憩は思い切り遊ぶ、授業は厳しくするとメリハリがついて自分もやりやすくなった。
C	4月初と比べると、9月に入って児童が落ち着き、学級経営がしやすくなった。4月からの取組で成果が上がっていると感じられる。
D	全員遊び（週に何回か、子どもたち全員と外で遊ぶ）を積極的に行って、絆が深まってきているように感じる。一人一人の子どもたちの、日頃見えない良い面も見えてくる。
E	良いことをクラス全員がしたらピー玉を瓶に入れようと話し、全員が頑張れることに取組み、クラスの雰囲気は良くなりつつある。
F	まだまだ指導している段階ですが、友達と仲良くしたり、思いやりを持つ姿が増えたように思います。

どの教員も、学級経営に関して、例えば、「クラスのルールが徹底されてきた。」「クラスの雰囲気が良くなりつつある。」「友達と仲良くしたり、思いやりを持つ姿が増えたように思います。」など、4月当初と比較して、徐々にではあるが児童が成長しクラスにまとまりや絆が深まってきていると回答している。これは、「一人ひとりがどんな子か分かってきて、その子に応じた言葉掛けができるようになった。」り、「休憩は思い切り遊ぶ、授業は厳しくするとメリハリがついて自分もやりやすくなった。」というように、児童実態の把握を適切に行えるようになったことや、指導方法に工夫がなされるなどの地道な努力が着実な成果を生んでいると考えられる。

保護者対応であった良かったこと・成果	
A	発達障害の子への毎時間の評価を生活ノートへ書くなど、毎日、保護者とやりとりを行ってきた。このことで家庭との緊密な連携が取れ、子どもが落ち着いてきた。気になる子の両親を呼んで話をしたら、こころの健康相談室や日本語教室を開始するようになった。
B	毎月の誕生日会では準備が大変だが、保護者の方から素敵なメッセージをありがとうございますとお礼の言葉をもらえた。
C	懇談会で複数の保護者から、児童に対する様々な取組を褒めて貰った。
D	問題が起きてから対応するのではなく、先手を打っておくと苦情にならず、相談になることが分かった。
E	一年生の時より落ち着きがあって嬉しいです等、参観日に来られた保護者から良い評価をして貰えた。
F	4月に比べると保護者と一対一で話しをすることに慣れた。(懇談会ではまだ緊張したり、何を話せばよいか混乱することがあります。)

この回答では、「懇談会で複数の保護者から、児童に対する様々な取組を褒めて貰った。」など、一人一人の児童への細やかな対応を保護者が評価していることがわかる。また、「問題が起きてから対応するのではなく、先手を打っておくと苦情にならず、相談になることが分かった。」など、保護者に対する適切な対応の在り方を自覚してきていることがみてとれる。

授業であった良かったこと・成果	
A	特になし。学級経営が上手いかわず、授業に関しては成果といえるものはない。
B	「なるほど～」とうなずきながら聞いてくれるときがごくまれにある。
C	発表への積極性が高まった。
D	活動を多くとって、自分たちの感覚で学習させると理解しやすい。
E	子どもたちが、「あー！わかった！」と言って、自信満々に手を挙げてくれることがある。

F	「分かった!」, 「楽しい!」という声が出たり, できなかった問題ができるようになったり, 頑張っている姿が見られた時。私自身, 落ち着いて授業ができるようになったり, 授業で盛り上げる場面を設定することができるようになり, 子どもたちも落ち着いたように感じます。
---	--

ここでは, 「『分かった!』, 『楽しい!』という声が出たり, できなかった問題ができるようになったり, 頑張っている姿が見られた時。」など, 多くの教員が, 児童の授業への参加する態度や反応をあげている。4月当初に比べ, 「私自身, 落ち着いて授業ができるようになったり, 授業で盛り上げる場面を設定することができるようになり, 子どもたちも落ち着いたように感じます。」など, 事前準備に時間を掛け, 授業の構成を十分に考えることで, 児童の理解度が深まったためと考えられる。

しかし, 「学級経営が上手くいかず, 授業に関しては成果といえるものはない。」という教員もあり, 学級経営の在り方と授業の密接な関係がみてとれ, 授業展開の難しさを考えさせられる。

学校生活（職員室等での人間関係等）であった良かったこと・成果

A	…いい位置にいる。
B	先生たちと休日にレクリエーションを行う時がある。
C	慣れてきて, 他の先生方と仲良くなり, 相談がし易くなった。
D	毎日, 朝に先生方の机を拭いたり, 先生方のゴミを捨てることを褒めて貰えた。教頭先生がよく声を掛けてくださり, 教材研究も一緒にして下さる。指導教諭の先生が, 丁寧に何でも教えてくださる。
E	どの先生も温かい対応をしてくださる。学校の話やプライベートの話など何でもできる。バーズデー会もある。いろいろな悩みや分からないことを教えてくれ, バックアップしてくれる。管理職の先生が毎週授業参観して下さり, 指導して貰え, 温かく見守って頂いている。体調を心配してくださる。
F	だんだん先生方と仲良くなれ, 楽しいです。どの先生も優しく, 資料や本などを貸して下さり, 適切に対応して頂けます。管理職の先生に, 分からないことや困っていることを質問したり相談したりすると, いつでも温かく対応してくださる。指導教諭の先生が, しっかりと丁寧に何でも教えてくださる。師範授業も見せて頂き, 大変勉強になります。とても心強いです。

学校生活（職員室等での人間関係等）に関しては, 「どの先生も温かい対応をしてくださる。」「だんだん先生方と仲良くなれ, 楽しいです。」などと, どの教員も満足度が高いと考えられる。管理職の方々や, 同僚の先生方, 指導教諭の適切で具体的なアドバイスや対応について感謝の念を覚えていることもみてとれる。

児童対応であった良かったこと・成果

A	褒めることと叱ることをはっきりすると児童の規範意識が高まった。子どもの対応で困ったら, 子どもへ助けを求め, 「あなたがいてよかった」と伝え続けたら, クラスの雰囲気良くなった。
---	---

B	時間はかかるが、子どもたちの話を丁寧に聞くと、子どもたちの心をゲットでき、嬉しかった。
C	4月から取り組んできたことが9月になって実を結び始めた。
D	4月に比べれば、子どもたちが人の話を聞けるようになった。
E	それぞれの子どもたちが、困難を乗り越えた時が嬉しいです。苦手なものを食べることができた、早く食べることができた、分からない問題ができた、遅れていた子どもが一番にできた等に感動します。
F	授業中に手悪さをしていたり、そのためノートをとることも遅れていた児童がいたのですが、私が肯定的な声掛けをすると、やる気を出して（波はありますが）、「こんなに解いたよ」と言って見せに来てくれたこと。

ここでも、学級経営同様に、「4月から取り組んできたことが9月になって実を結び始めた。」など、日々の積み重ねが児童に良い影響を及ぼしていることが考えられる。「時間はかかるが、子どもたちの話を丁寧に聞くと、子どもたちの心をゲットでき、嬉しかった。」など、一人一人の児童へ親密な対応を心掛けることで、人間関係が形成でき、関わりが深まっていくことが分かる。

その他、就職して学校生活等に関して良かったこと・成果

A	昨年度、不登校傾向にあった児童が、毎日、登校するようになり、保護者から感謝の言葉を頂戴した。味方の子どもが増え、前よりは指示が入り易くなっている。
B	どの先生もいい人！何でも教えてくれる！年齢が若いせいか、学校以外の話も何でもできる。
C	何かあった時に相談がし易い先生がたくさんいる。子どもたちが慣れて落ち着いたからか、子ども同士の関係が良くなった。
D	社会人は、本当に大変で、大学のときのように自分の時間がもてないので、本当にしんどい。でも、子どもたちのために頑張ろうと思える時もある。が、自分の体が第一なので、無理をせず、自分らしくやっていきたい。独り暮らしがきちんとできるかどうか4月当初心配だったが、何とか独り暮らしを楽しんでいる。
E	とにかく忙しい。一日が24時間では足りない。でも、4月より9月は少しだけ余裕ができた。
F	教員生活が楽しいです。次から次へと行事や仕事が出てきて、それを着実にやり遂げていく「先生」という職業は凄いと改めて感じます。

ここでは多様な回答がみられたが、児童に関わること、同僚に関することで良かったと感じることを再度述べているケースがみられる。また、自己の希望する職種に就けたことに対し、「教員生活が楽しいです。」と述べ、「次から次へと行事や仕事が出てきて、それを着実にやり遂げていく『先生』という職業は凄いと改めて感じます。」と、教員という職業のやり甲斐について、回答している事例もあった。

V 勤務実態と課題

本稿では、本年度の小学校初任教員6名の、4月から7月までの4ヶ月間の、勤務時間に関して、「平日平均出勤時間」、「平日平均退勤時間」、「最も早い出勤時間」、「最も遅い退勤時間」、「土日出勤数・時間」の回答を求めた。また、4月から7月までの4ヶ月間の、勤務内容に関して、「学級経営で困ったこと・悩んだこと」、「保護者対応で困ったこと・悩んだこと」、「授業で困ったこと・悩んだこと」等の回答と、「学級経営であった良かったこと・成果」、「保護者対応であった良かったこと・成果」、「授業であった良かったこと・成果」等の回答を求めた。

勤務時間に関しては、どの教員も膨大な時間を仕事に掛けていることが明らかになり、勤務内容に関しても、学級経営や児童対応、授業、保護者対応等に呻吟している姿が分かった。反面、4月からの一人一人への丁寧な配慮や心配りが実を結び、良好な人間関係が築かれつつある様子や、学級経営が軌道に乗り、授業の仕方も慣れてきて、授業に集中していく児童の姿がうかがえる。管理職や同僚の先生方からの的確なアドバイスも、日々の学校生活における指導力向上に結び付いているようだ。また、それらのことが保護者からの好意的な評価にも繋がってきている。

小学校初任教員は、3月末までの「学生」から一変し、4月1日に「先生」と呼ばれるようになる。周囲からは職業人としての「先生」として扱われ、その役割を果たさなければいけない。自身が、「小学生」として「小学校」を体験しているわけだが、「先生」として「小学校」に勤務し、体験したことがない仕事を行わなければならない。普通の初任職業人であれば、十分な「研修期間」を取って、一人前の職業人に成長していく。しかし、小学校初任教員は、以前に比べたら「研修」の回数・時間・内容は充実してきてはいるが、4月から担任を任せられ、当然の如く他の教員と同じように学級経営、授業等を行わなければならない。仕事をしながら、他の先輩教員の指導等に学び、日々経験を重ねる中で、自らを一人前の「先生」に成長させる要素が強い。そのため、日々の仕事を誠実に遂行しようとすれば、長い時間が掛からざるをえない。

また、「学級がうまく機能しない状況」の予防・克服に向けた取組を、以前にも増して行わなければならない状況もある。即ち、「自己抑制力の低下、対人関係が持てない、ストレス発散の未熟、粗暴化の傾向、集団体験・体験的学習の不足など」の問題を抱えた子どもや、「少子化傾向、保護者の教育観の変化、規範意識醸成の不足、担任・学校への不信や過剰な期待、子育ての不安など」の問題を抱えた家庭、「情報化、多忙化、ストレス社会、不況の深刻化、私事化傾向など」の社会的な状況などから生じる課題への対応である⁵⁾。

こうしたことが、勤務の長時間化を生じざるをえない状況を招いているし、行政による大幅な改革が無い限り、今後もこの傾向は続くものと考えられる。

本稿では、小学校初任教員の勤務実態に係る課題に対する改善についての論考は行えていない。しかし、長時間勤務の課題に対して、小学校初任教員が、アンケートの欄外で、「自分自身、行事や授業など一つ一つ乗り越える度に、力が付いてきていると感じられることが良かったことです。」「忙しく失敗ばかりの中に充実感や達成感がある。子どもは本当に素晴らしいし、周りの環境もとても有り難い。辞めたいとか、後悔は一度もしていない。『自分のやりたかったことはこれだ』と、いつも喜びを噛み締めています。」と述べているように、長期的に見た場合、課題から成果が生まれてくることもあるのではないかと考えられる。

【註】

- 1) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」平成20年、p. 20
- 2) 広島県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」に、平成23年9月26日に掲載された「県議会における教育関係の質問と答弁」参照
- 3) 前2) 参照
- 4) アンケートを平成23年8月初旬に送付し、9月初旬に提出完了
- 5) 有村久春「『学級がうまく機能しない状況』の克服課題」、木岡一明編集『学年・学級の指導点検とカリキュラム開発』教育開発研究所、平成16年、p. 23を一部表記改変・加筆